

<p>人と魚と海のネットワーク 香川県漁連ホームページ http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/</p>		<p>JF 高松市北浜町8-25 TEL 087-825-0350 FAX 087-851-0699 JF香川漁連</p>
---	--	---



謹賀新年



香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

さて、国内の経済状況については、安倍内閣はアベノミクスの第2ステージとして、昨年新3本の矢を発表しました。景気はこのところ一部に弱さもみられますが、緩やかな回復基調が進むとされ、引き続き回復に向かうことが期待されます。しかしながら、地方においてはアベノミクスの効果は現在のところ実感できず、今年こそ景気動向が上向きになるよう願うばかりであります。

また、懸念事項であったTPP交渉が約5年半にも及ぶ協議の末、大筋合意に至りました。水産業界においては、漁業補助金については国会決議に則り維持されることとなりましたが、重要品目である海藻類(ノリ、コンブ等)については関税が15%削減されることになりました。また品目によっては関税が即時撤廃されるもの、撤廃に一定期間を設けるものがあり、農畜産物等の輸入拡大による水産物の価格下落や、消費減少の影響が懸念されます。

そのような中、昨年は県魚「ハマチ」指定20周年の記念の年でありました。県民皆様に愛されてきたことへの感謝と県魚「ハマチ」の消費拡大や販路拡大をより一層図るため、11月7日(土)丸亀町グリーンにて記念イベントを開催し、多くの県民の方にご参加いただきました。このように20周年を迎えることが出来たのも、偏に組合員の皆様、また多くの関係者のお力添えがあったことであり、心よりお礼申し上げます。本年も昨年同様、関係団体、県、系統、業界が一丸と

なり「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業を継続し、香川ブランドハマチ三兄弟をはじめ、香川県産ノリ・イリコや新しいブランド魚として讃岐でんぶく、讃岐さーもん、さぬき蛸などのPR活動を行い、県産水産物のおいしさを広く知っていただけるよう消費の拡大に努めてまいります。

また、本県水産業が抱える諸問題に関しましては、将来に向けて漁業を安定的に継続していくために、漁船漁業については資源管理型漁業と放流事業を推進し漁獲量の安定を目指します。魚類養殖業やノリ養殖業については関係団体と協力しながら生産性の向上に取り組んでまいります。さらに、漁業者の高齢化や後継者不足により漁業者が減少する中、漁協組織再編や事業再編等を検討いたします。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、組合員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年政府は安保法案を改正、TPP大筋合意や消費税の2%引き上げを決め景気の動向が懸念されています。

顧みますと昨年のかん水養殖業はハマチ、カンパチ共に種苗の池入れは順調に進み赤潮被害も無く、夏場の低水温でカンパチの成長を阻害したものの、ハマチは成長も良く殆どが4kg超えとなりましたが9月の出荷当初の浜値が前年より、170円下げの750円でスタートして年末には680円と生産原価を下回る浜値で推移しました。カンパチは全国的な在池量の少なさから1,100円台をキープしつつ30円下げの1,070円で、12月11日に漁連枠は完売しました。ハマチは5万尾程の年越しが予想されますが、1月中旬の完売を目指して香川県漁連に販売促進を訴えているところでもあります。

相次ぐ飼餌料の高騰等、漁家経営は厳しい局面を迎えています。1月末に開催予定の全海水府県代表者会議、並びに水産庁の需給検討会で全国の放養尾数の需給バランスがとれ、過剰生産にならないよう働きかけて参る所存です。

県産ブランドのひけた鰯、直島ハマチ、オリーブハマチは県内外のスーパー、量販店でも安定的に販売され定着しつつありますが、更なる販路拡大を求め「さぬき海の幸販売促進協議会」に積極的に参加して組合員の負託にこたえたい。

TPP大筋合意に依り、近い将来輸入水産物より畜肉との競合で魚価の暴落を招かぬよう生産者自らも汗をかき、逆境を乗り越えるべき方策、施策を全海水で取りまとめ、海外輸出も視野に入れながら水産庁、自民党養殖漁業懇話会の先生方に強く要望して参りたい。

減産傾向にある本県魚類養殖の灯を消さず、明日を担う後継者や若者が夢とロマンを持てるよう、次世代に残せるよう、官民一体となり県水産課並びに香川県漁連と連携を強め、役職員一同、心を新たに本組合運営に邁進していく所存であります。

組合員皆様には尚一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

香川県海苔養殖研究会

会長 西口 正弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返ってみますと、昨年漁期は12月の九州地区の不作予想もあり、全体に強含みのスタートとなりました。しかし、本県においては月初めの荒天、食害等で1月まで数量は前年を下回りました。2月以降は栄養塩も低い状況ではありますが、鈍化傾向であり2月一杯の生産が続き、また、中級品以下の相場高で一息つけた状況かと思えます。

今漁期を迎え、採苗は9月下旬から10月中旬にかけて多度津種苗センターで実施され、育苗期には、若干の生理障害が見られたものの概ね順調に推移しました。しかし、本張りは水温低下が遅れ、例年より1週間から10日程遅れての張り込みとなりました。全国を見ますと、九州地区の秋芽不振、その他の地区では一部色落ち傾向等波乱含みの入札会となっています。

そういった中、初入札が行われ数量は約787万枚で前年比57%だったものの平均単価は14円となりました。今後の生産に期待したいものです。尚、TPPについては合意となりましたが、ノリについては韓国の参加がないものの、参加の噂もあります。今後の動向に注意していきたいと思えます。

本年度も特にノリの普及PR活動に力を注ぎ、各種イベントに協賛参加し、香川の旨いノリをアピールしてまいります。初摘み認証マークも新しく見直し、また、PRマークも設けました。こういったマーク類を活用し、今後の普及活動に役立てて行こうと考えています。

最後になりましたが、ノリ関係各位のご健勝ご多幸と27年度漁期の豊作をご祈念申し上げますとともに、皆様の尚一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



「初摘み」香川県産ノリ認証委員会認証マーク

←初摘み認証マーク

↓PRマーク



かがわののり

香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服部郁弘

新年、明けましておめでとうございます。

平成28年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご協力とご支援を賜り誠に有難うございます。

昨年は、宇和島漁業協同組合に漁業用無線の運営について視察を行いました。同組合でも、携帯電話が普及しており、船舶局が減少傾向にあると説明がありました。携帯電話は一对一の通話であり、事故や津波等の緊急情報は一斉送信できる漁業用無線が非常に有効であるなどの意見交換が行われました。

スプリアス発射の強度の許容値に関する無線設備規則の改正により、基準値にあった無線機器へ移行する必要があります。現在、経過装置として、平成19年11月30日までに製造された旧スプリアス規格の無線機器及びレーダー(平成24年11月30日以前に製造された無線設備規則第48条に該当するもの)は、平成29年11月30日までに免許を受けていれば、再免許申請により平成34年11月30日まで使用することができます。また、型式検定に合格している機器は、平成29年11月30日以前に設置した場合、平成34年11月30日以降もその設置が継続する限り旧スプリアス規格での運用が可能となっています。

この度、総務省より、平成19年11月30日以前に製造された無線機器及びレーダー(上記レーダー)の新スプリアス規格の対応に関し、次の4点の措置が適用される予定となっています。

- ①新スプリアス対応機器への買い換え
- ②送信出力端子と空中線との間にフィルター挿入
- ③スプリアスの実力値を測定し、許容範囲であれば総合通信局へ届出書提出
- ④製造業者が許容値以内であることを証明し、総務省が認めた旧スプリアス機器であること

今後も新たな動きがありましたら、お知らせしたいと考えております。

本年も、漁船漁業の操業の安全、生産性の効率化を図るため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員の皆様をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 服部郁弘

新年明けましておめでとうございます。

平成28年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、近年の本県水産業は漁獲量の減少、魚価の低迷と厳しい状況が続いております。しかしながら、豊かな瀬戸内海で育まれた本県の水産物は非常に美味しく、また栄養価にも優れています。種類も県魚ハマチをはじめ、ノリ、イリコ、サワラ、タコなど挙げればきりがなほど豊富ですので、老若男女を問わず、是非とも多くの人たちに継続して食べていただきたいものです。当協会としては県産水産物の学校給食への食材活用、地産地消・食育の推進に加え、「さぬき海の幸販売促進協議会」に参画することにより、PRを行っております。しかし、まだまだ効果は不十分ですので、今後も継続して努める所存です。

また、水産資源の維持・増大を図るべく大型種苗放流事業を継続実施しております。さらに放流事業に加えて、より効果的な放流方法と放流場所等を調査する放流効果実証事業を行っております。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援、また、県漁連、県水産課、ライフガードレディースかがわ及び海上保安部等関係機関と協力し、海難事故を未然に防ぐため、ライフジャケットの着用推進に努めております。しかし、昨年も漁船による海難死亡事故が本県海域において、不幸にも3件発生いたしました。海難事故を全て防ぐことは困難ですが、今後も海難事故の未然防止に向け、ライフジャケットの着用推進運動等を積極的に推進していきたいと考えております。

最後に、平成28年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏



新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、振り返りますれば昨年は、「水産日本の復活」に向け、JFグループを挙げて「浜の活力再生プラン」の策定・実践に取り組んで参りました。昨年11月末現在で481地区のプランが承認されており、これほどまで全国で一致して行われた取り組みは他に類のないものと、多くの関係者から評価をいただいております。

「プライドフィッシュプロジェクト」についてもマスメディアに多く登場するとともに、有名流通、小売店でもフェアが開催されるなど、消費者にも一定程度の認知を得ることができました。また、本会が、JFグループ初の海外アンテナショップとしてシンガポールに開店した「JF KANDA WADATSUMI」においても、現地の方々を対象に毎月のようにセミナー、フェアを開催し、国産水産物の優れた品質をアピールすることで、国産水産物普及拡大の一翼を担うことができました。

一方で、昨年10月5日にTPP交渉は大筋合意に至り、漁業補助金の国の政策決定権は維持されたものの、関税についてはノリ、コンブ等の海藻類を除き全て撤廃という厳しい結果となりました。さらに、我々にとっては、畜産物関税が大幅に引き下げられることで、魚から肉類への消費のシフトによる水産物消費の減少や価格下落が懸念されるところであります。

現在、各浜では漁業者が血の滲むような改革をしております。この尊い努力がTPPにより水泡に帰すことにならないようJFグループでは、強力な支援策を求める活動を関係要路に行っています。その結果、11月25日に決定された政府大綱に、「担い手へのリース方式による漁船導入」、「産地の施設の再編整備」、「漁船漁業の構造改革」、「漁業経営セーフティーネット構築事業の運用改善」等の取り組みが盛り込まれ、補正予算等での実現に取り組んでいきます。

TPPをはじめ震災復興など厳しい状況は続きますが、「ピンチをチャンスに」を常に念頭に置き、意欲ある漁業者が将来に亘って希望を持って経営に取り組んでいけるよう今後も活動をしていく所存であります。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましてはこの難局を乗り越えていくために、これまで以上に英知と総力を結集していただき、浜プランの完遂に向け、引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

乾海苔初入札

平成27年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月17日（木）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。



第1回共販の様子

今年の本張りについては、例年より10日前後遅れ、その後の食害、芽流れ及び荒天によりほんの一部を除き12月に入ってからの生産となりました。

初共販の出品枚数は昨年より半減の出品となりましたが、出荷組合グループは東讃地区と中讃地区を除いて出品され、等級は、一部特クラスがあるものの1等・2等が中心となりました。

第1回の共販枚数は、7,872千枚（昨年13,675千枚）となりました。

初入札の結果は入札金額110,193千円（昨年151,811千円）前年対比72%、平均単価は14.00円/枚（昨年11.10円/枚）でした。これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。